「研究者・実践者の立ち位置」をめぐって

小川　正賢
東京理科大学
科学教育研究科

科学教育の文化研究，STS教育，理工系人材開発，科学技術コミュニケーション，高等科学教育，理数科教員養成などの研究を行ってきた．

講演者:小川正賢教授　東京理科大学科学教育研究科

日時：2018年12月11日（火）　18:00-20:00

場所：東京大学本郷キャンパス　工学部2号館　92B教室

要申し込み：こちらから登録をお願いいたします。https://goo.gl/bzaCHD

概要：

「科学教育（科学コミュニケーションも含む）」とは「現代を生きる人間と，社会の中の科学との界面に生じる多様な課題・問題を，「教育（コミュニケーションや人材育成などを含む）」というレンズで読み解き，人間と科学とのよりよい関係のあり方をデザイン・実践・評価することをめざす研究領域である」と考える．ここには「多様な課題・問題を読み解く」「人間と科学とのよりよい関係のあり方をデザイン・実践・評価する」という二つの要素が含まれる．前者は，通常の社会科学的な基礎研究・応用研究であり，後者は，コンテキストに依存した実践や介入を想定した開発研究である．「科学教育」という研究領域の究極目的は後者にある．科学教育の研究者・実践者は，「科学と人間とのよりよい関係」をめぐって，それぞれ，どのような立ち位置をとれるのか，とるべきなのか？クライアントや介入者，被介入者が保持する科学との「距離感」が，研究者自身のそれと異なる場合，誰の「距離感」に基づいて介入活動をデザインするべきなのか？「価値観の多様化」の時代では，これは避けて通れない問題である．